



郷土資料室所蔵資料から

『南都名所集』 10 巻 10 冊

太田叙親／村井道弘 共編

延宝3年(1675)刊。10巻10冊。太田叙親と村井道弘の共編の名所記。巻1～6まで奈良、巻7以後の4冊は奈良を離れ、広く大和一円の寺社を叙述する。村井道弘の序文によると、太田が資料を集め、あらまし作ったものに、村井が再撰して名所の各項に古歌や自作の句を付記したという。太田叙親の経歴は不詳だが、村井道弘は、奈良の人で承応元年(1652)生まれ、北村季吟に師事、他に

俳書「赤紫」を著し、正徳6年(1716)65歳で歿。本書の特色は挿絵が豊富なことである。構図は、やや誇大された人物を配し、図柄もかならずしも正確ではないが、当時の奈良町内の様相をうかがわせる挿絵が多い。恐らく、複数の画家の手になるもので道弘を中心とした奈良の人々によって出版されたものであろう。当館所蔵本は、巻1が欠本。

- 郷土資料室所蔵資料から『南都名所集』 …… 1
- “温故知新”
〈県立図書館開館100周年に向けて
ー図書館をめぐる人々(2)〉 … 2
- 奈良県「戦争体験文庫」 …………… 3
- 書誌データベースの構築に向けて 8 …… 4
- レファレンスあれこれ (19) …………… 5
- 近代文学と奈良 12
西条八十と奈良 …………… 7
- 「携帯版 Web サービス」について …………… 8
- 「(仮称)奈良県立図書館情報館 on the WEB」先行 OPEN! … 9
- Pick up テーマ『電 蓄』 …………… 10

“ 温 故 知 新 ”

県立図書館開館 100 周年に向けて ― 図書館をめぐる人々 (2)

県立図書館は、5 年後の 2009 年 11 月に 100 周年を迎えます。

私たちは、このコーナーで県立図書館の歴史を振り返りたいと考え、前回からは「人物史－図書館をめぐる人々」と題し、奈良図書館の活動に関わった図書館内外の人々を取り上げましたが、今回はその 2 回目にあたります。

今回は、今西伊之吉（元奈良図書館員、郷土史家）、藤田祥光（郷土史家、コレクター）、久留島武彦（童話家）の 3 名を取り上げることにしました。

この 3 名は、いずれも大正期・昭和戦前戦後期を中心に活躍した人々で、今西伊之吉は奈良図書館司書として、また郷土史家として活躍し、在職中に若くして亡くなりました。生前に収集された史料は当館に寄贈され、「今西文庫」として特殊コレクションの一つとなっています。また藤田祥光は、もともと事業家で紙商を営み、昭和初年から郷土史の調査研究に精力的に取り組まれた。とくに明治維新时期を中心とした奈良の研究家として知られ、またコレクターとしても有名で、^{いわや さざなみ}のちにその史料は当館に寄贈されて「藤田文庫」となっています。久留島武彦は、口演童話家として有名で巖谷小波とともに全国を行脚し、「奈良県童話連盟」が設立されると顧問に就任、これを契機に奈良との関わりをいっそう深め、同連盟の事務局が奈良図書館におかれていたこともあって、当館と関わるようになりました。

このように 3 名の足跡をみても、当時の奈良図書館との深い関わりがみられ、当館の活動に大きな貢献をしたといえましょう。



いま にし いのきち
今 西 伊之吉 (1875～1922)

今西伊之吉は、明治 8 年（1875）10 月 17 日、十市郡大福村（現、桜井市）に生まれた。奈良師範学校（現、奈良教育大学）を病気で中退後、十七歳にして独学で教員となり、飛鳥小学校（現、明日香村）や晩成小学校（現、橿原市）で教鞭をとった。

伊之吉はもともと歴史に関心があり、教員になってからも高市郡を中心に郷土資料の収集につとめた。明治 30 年代に大和が国の発祥の地として注目されはじめると、伊之吉は、中央の学者との交流もはじまり、なかでも当時新進の歴史学者であった喜田貞吉を師と仰いだ。

喜田の飛鳥・藤原京や大和の条里制の研究は、伊之吉の収集した資料にもとづいていた。こうしたなかで伊之吉は教員を辞め、喜田のいる京都帝国大学の近くに家族とともに転住し、喜田の助手として資料の収集にあたった。

その後伊之吉は、喜田のもとを離れて奈良に帰り、奈良図書館に採用された。図書館員となった伊之吉は、大和関係の資料収集にあたったが、その一年半後に四十七歳で帰らぬ人となった。喜田の収集資料は、遺族により当館に寄贈され、「今西文庫」として貴重なコレクションとなっている。

なお、昭和 6 年（1931）9 月 21 日に物故館員慰霊祭が行われ、高田十郎らの出席のもと、今西伊之吉らの慰霊が祭られた。



ふじ た しょう こう
藤 田 祥 光 (1877～1950)

藤田祥光は、郷土史家であり、歌人でもある。明治 10 年（1877）6 月に奈良光明院町に生まれた。名は庄二郎、字は祥光。幼くして藤田家の養子（旧姓山田）となる。若くして事業を起し、38 年（1905）10 月から紙商をはじめ、国益巻紙を発明するなどした。43 年（1910）大和日報社から奈良県模範の実業家として表彰された。また大正 11 年（1922）大日本歌道奨励会良支部長になり、本格的に歌会をはじめた。

ついで昭和 2 年（1927）から郷土資料の収集をはじめ、郷土史家として出発した。5 年（1930）からは隠居の身となり、郷土史家として研究調査に専念することになった。

そして 10 年（1935）に大乘院脱稿、翌 11 年（1936）に奈良奉行所・奈良晒・能楽を脱稿、さらに 12 年（1937）6 月に明治 10 年行幸記と御一新記を脱稿した。その後も奈良の明治維新时期を中心に研究調査を重ねたが、昭和 25 年（1950）8 月 14 日に享年 74 歳でこの世を去った。彼の著作は、翌 26 年 7 月に遺族から手写記録類 223 点、文献 394 点が当館に寄贈され、「藤田文庫」となった。



く り し ま た け ひ こ
久留島 武 彦 (1874～1960)

久留島武彦は、明治7年(1874)に大分県玖珠郡森町の久留島藩邸に生まれた。明治23年(1890)県立大分中学在学中に英語教師の影響もあって、キリスト教の洗礼をうけた。関西学院神学部(現、関西学院大学)を卒業後、近衛師団歩兵第一連隊に入隊し、日清・日露戦争に従軍したが、戦地からの投稿が『少年世界』に連載され、これが奇縁となって巖谷小波と知り合い、お伽会・お話会・童話会など口演童話活動をするようになり、全国各地を巡講した。

こうした活動のなかで、すでに奈良との関わりがあったが、大正15年(1926)5月に「奈良県童話連盟」(「童話連盟」と略記)が設立されると、久留島は巖谷小波とともに顧問に就任、これを契機に奈良と深く関わるようになった。昭和2年(1927)5月に奈良県教育会との共催の童話講習会、10年(1935)6月の奈良県童話連盟創立10周年記念童話講習会などに参加するためしばしば来寧しているが、19年(1944)9月からは奈良に在住するようになり、戦後しばらく滞在していたようである。

とくに奈良図書館との関係は深く、「童話連盟」の事務局が当館におかれた関係で、『図書館月報』に「図書館の新傾向」(昭和2年3月1日)と題する小文を寄せており、戦後になって昭和26年(1951)8月には、当館で童話口演会を開いている。

-----【主な参考文献】-----

- ・仲川 明『大福画帖』 1969年
- ・乾 健治『今西伊之吉伝』 1971年
- ・勢家肇『久留島武彦・年譜』 1986年

- ・吉井敏幸「未完の歴史学者—今西伊之吉」(『県政だより』2003.12)

- ・『藤田文庫 履歴書』

※本文中の人物スケッチは仲川氏の筆による。

(山上 豊)

奈良県「戦争体験文庫」

奈良県では、戦争に関わる体験を風化させることなく次世代に伝えていくため、建設中の(仮称)奈良県立図書情報館に「戦争体験文庫」を開設すべく、平成9年1月から全国的規模での資料収集を行っています。

収集しているのは、おおむね満州事変(昭和6年・1931年)の頃から第二次世界大戦終結後(占領体制が終了した昭和27年・1952年)の頃までの、戦争や戦争に関わる体験及び当時の社会や生活の様子を記録した資料(図書・雑誌・日記・手紙・葉書・回覧板・ポスター・ビラ・チラシ・写真など)です。

先の戦争で、大きな戦災もなく、県内の多くの文化財等が残っている本県で、戦後50年を記念して始めたこの事業では、開館までに5万点以上の資料を揃えることを目指しています。

開館後は、県内の中核的公共図書館として、特色ある資料を保有する専門資料群の大きな柱の一つとなります。戦争体験者が次第に少なくなっ

ていくなかで、当時の資料がこれ以上散逸するのを防ぐためにも、保存を図りながら、利用者が自由に資料を選び、利用することにより、幅の広い学習をすることができる場を提供する予定ですので、学習・調査・研究などに大いに活用していただきたいと考えています。また、当時の資料から戦前、戦中期の日本がどんな空気に包まれていたのかを実感し、当時の人々の思いや生活ぶりを知ってほしいと思います。

現在、約4万5千点の資料が集まっていますが、なお、いっそう充実していきたい所存ですので、お手持ちの資料がありましたらご寄贈くださいますようお願いいたします。

なお、新館オープンまでは、現奈良図書館のロビーに、「戦争体験文庫」紹介コーナーを設置し、PRを兼ねて、収集した資料の一部(図書：約400冊、その他：約10点)を配架・展示していますので、ご利用下さい。

(普及協力係)

〈紹介コーナー〉



書誌データベースの構築に向けて

— 遡及入力の実状 (8) 公文書・古文書・絵図 —

県立奈良図書館の所蔵資料のうち、郷土関係資料群を構成するものには、図書・雑誌・新聞・論文・パンフレットのほか、公文書や古文書などの文書資料や絵図・古地図などが含まれる。現在、新県立図書館整備事業の一環として、これらの資料のデジタル化やデータベース化が進められており、絵図については必要な修復も行われている。

そこで、これら図書資料以外の文書資料等について、その概要を紹介したい。

(公文書)

県立図書館における公文書とは、奈良県庁が保管していたか、または現に保管している行政起案文書のうち、図書館に移管されたものをいう。図書館が公文書を扱う例は、都道府県では珍しいが、奈良県では、昭和 38 (1963) 年の県庁舎建て替えの際に廃棄された大量の行政文書を図書館に一時保管したことがきっかけとなっている。

奈良県の公文書は、本県が一時期、他府県に属していたものの、先の戦争で大きな戦災を受けていないこともあり、明治初年以降の文書がよく保存されているといえる。また、県立図書館以外にも天理大学附属天理図書館をはじめ、他の学術研究機関にもその一部が保存されている。

1980 年代後半になると、行政記録の歴史的価値を評価し、保存・活用するという気運の高まりの中で、本県でも総務部文書学事課（現総務課）を中心に平成 2 (1990) 年より「歴史的な文書調査研究会」を立ち上げ、歴史的な文書の保存・利用に関する調査・検討が行われた。さらに翌年からは、「歴史的な文書保存利用研究会」が発足し、当研究会が主として明治以降の永年保存文書（県が永久に保存すると決めた文書）を調査し、歴史的な文書としての価値が高く、保存し利用に供されることが適当と判断したものが、適宜県立図書館へ移管されることとなった。現在、知事部局や教育委員会事務局に保管されていた 8,000 簿冊余りの公文書が所蔵されている。

さらに、平成 13 年 (1991) 4 月には、県行政文書管理規則が新たに施行され、行政文書のうち

保存期間が 5 年以上のものは、その期間満了後県立図書館に移管するものと規定され（規則第 9 条）、新たな文書移管が行われている。

図書館では平成 9 (1997) 年に、公文書・古文書・絵図データベースシステムを構築し、翌年より簿冊目録データの入力作業を開始し、また平成 12 (2000) 年からは、詳細目録データの入力を開始し、現在も継続中である。なお、簿冊データは、O P A C 上に試験的に公開している。

(古文書)

県立図書館所蔵の古文書（近世・近代文書）は、寄託・購入・寄贈文書を含めて、234 箱、20,857 点を数える。内容的には村方文書がほとんどで、奈良奉行所関係の史料や寺社文書も含む。これらの古文書は 55 史料群から成り、1,000 点以上の史料群は牧浦家文書・榎根家文書・今西家文書・中野家文書・高松家文書の 5 史料群である。この 5 史料群で全体の 7 割を占めている。

平成 13 (2001) 年から業務委託によりデータベース構築を始め、平成 16 (2004) 年には、現所蔵分の入力をほぼ終える予定である。なお、データは、順次 O P A C 上に公開されている。

(絵図)

県立図書館所蔵絵図は、江戸期の大和国のもの、明治期以降昭和初期までの奈良県の地図を含む 180 点余りあり、このうち 3 割が江戸時代、約半分が明治期のものである。内容的には、寺社及び名勝図や名所案内図・道中図などの寺社参詣・観光客を対象に作成されたものが過半数を占め、次いで、大和国絵図、村絵図、奈良町絵図などが 3 割、その他、陵墓・城・引札が含まれている。

平成 8 (1996) 年に 57 点がデジタル化され、平成 11 (1999) 年には 3 点を修復、さらに平成 12 (2000) 年には 15 点を修復するとともに、81 点がデジタル化された。

所蔵絵図は、公文書・古文書・絵図データベースシステムにデータ登録する一方、図書館ホームページ上に「絵図展示ギャラリー」のページをつくり、詳細な解説を付してデジタル画像を公開し

ている。

（おわりに）

これら図書資料以外のデータベースシステムは、図書資料のシステムを基本にして独自開発されたものではあるが、現在は図書データとともに統合的に検索できるシステムとなっている。しかし、資料の特異性ゆえ図書資料の目録規則との整合性の問題など課題が残る。

公文書・古文書・絵図などの文書資料等は、奈良県関係の専門資料群の中核をなす資料群である。

また、平成 17 年度に開館予定の（仮称）奈良県立図書情報館は、公文書館機能を併せ持つ図書館として構想されており、公文書館機能を担う資料群でもあり、一層の収集による資料の充実が望まれる。また、データベース構築やデジタル化は、主として業者委託によっているが、機能強化と利用者の利便性を高める観点から、今後ともシステム改善に努めるとともに、古文書をはじめとしたさらなるデジタル化や新たな収集資料のデータ構築を進めていく必要がある。（乾 聡一郎）

レファレンス・あれこれ (19)

■ 関 覧 室 ■

Q 日本および米国の人口（最新情報）を知りたい。

A 人口などの統計情報を調べるには、総務省統計局が発行する『世界の統計』や『日本統計年鑑』等の資料を用います。また、それらの情報について過去に遡って調べたい場合には『マクミラン新編世界歴史統計』（東洋書林）や『日本長期統計総覧』（日本統計協会）等の資料を使用します。

今回の事例のように、最新の情報が必要な場合は、総務省統計局のホームページ（*）で確認することができます。

日本の人口については、「概算値」、「確定値」の 2 つの集計結果が掲載されており、最新の数値がわかります。「概算値」は毎月 1 日現在の数値であり、それが算出用データの更新をうけ、4 ヶ月後に「確定値」となります。これらの数値は男女別、年齢別（5 歳階級）に集計されています。

米国の人口についても前述ホームページから調べることができます。世界の国々が実施した直近の人口センサス（人口に関する全数調査）による「現在人口」や、それをもとに算出した「年次推計人口」（各年 7 月 1 日現在の数値）から各国の人口がわかります。さらに、各国の統計情報サイトへのリンク集もあり、詳細なデータを入手することも可能です。

また、『現代アメリカデータ総覧』（アメリカ合衆国商務省センサス局編）には 30 にわたる分野のデータが収録されており、幅広い統計情報が得られます。

（*）総務省統計局 <http://www.stat.go.jp/>
（徳山さおり）

■ 児 童 室 ■

Q 小学 6 年生頃の教科書に載っていたと思う作品を読みたい。「ガラスのこびん」というタイトルだったと思う。
（質問者は 20 代前半の女性）

A お探しのものは、『ガラスのこびん』阿久悠作で 1992 年度版の光村図書出版の『小学校国語教科書 6 年生下』に掲載された作品です。

当館の検索に該当はなく、似たタイトルで『いろいろのこびんちゃん』佐藤さとり作があり、現物を見てもらと、「これかも…」という返事でしたが、さらに、当館ホームページの県内公共図書館横断検索をみますと、橿原市立図書館が『光村ライブラリー 15 ガラスのこびん：ほか』を所蔵していることがわかりました（当館でも現在は所蔵）。次に、インターネット検索で、大阪府立国際児童文学館ホームページ（<http://www.iiclo.or.jp/>）内の“当館専門員作成研究データ集”「小

学校国語教科書掲載文学作品リスト 向川幹雄 編」に 1992 年度版～2000 年度版の各社の教科書掲載作品リストがあり、そこで該当作品の掲載年等を確認出来ました。

このような質問は、まず質問者の年齢、地域などから掲載年を推測して探します。上記以外の参考文献、お役立ちサイト等を挙げておきます。

当館所蔵文献：

『教科書で習ったお話編（この本読んだ？おぼえてる？）』あかぎかんこ著 フェリシモ出版、

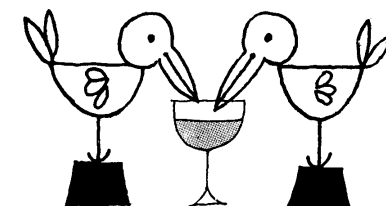
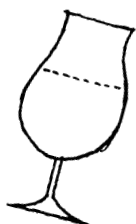
『教科書と児童文学』向川幹雄著 高文堂出版社

Web サイト：

文部科学省「初等中等教育」教科書のページ、都道府県設置の教科書センター一覧 (http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/index.htm)。

芦屋市立図書「教科書に載っている本」（小・中）(<http://www.ashiya-city-library.jp/>)

ホームページはありませんが（財）教科書研究センター教科書図書館（TEL：03-5606-4314）では戦後の検定教科書から諸外国の教科書までを収集、幅広く利用できます。（松村 順子）



■ 郷土資料室 ■

Q 言葉の意味は一吉野の山言葉を例として一

A レファレンスを受ける時、その言葉の意味、あるいは用語についてよくわからないことがあります。質問者にとっては、説明を要さないと思われるのかもわかりません。そう考えてみると、関係者の間では一切説明・注釈を要さず会話が成立しているものが身近にあることに気がきました。

それは、吉野地方（川上村・東吉野村）で、現在も日常語として使われている山言葉です。関係者以外では知られていないか、あるいは、全く別の意味で使われているかも判らない言葉を幾つか、思いつくまま挙げてみたいと思います。

メアイ（目合）木の年輪を言います。

ノボセギリ（登伐）山の傾斜に添って穂先を上
に倒すこと。

シューリ（修理）十年生前後に下枝を打ち、混
んでいる所は除伐すること。

コクイン（極印）彫り刻んでつくられた鉄印。
墨を付けて打ちます。カタツ
ケ（片付）の時使用します。
片付とは立木調査のことです。

現在は、横文字・カタカナ語が氾濫しています。勿論、その必要性があって使用されていると思っています。しかし、一般には判りづらい言葉・用語には、日本語訳があれば、より理解が進むのではないかと、勝手なことを考えることもあります。

《参考文献》

『大和志』第 11 巻 3・4 号

（大和国史会）

『調和』

（清光林業〔株〕）

（潮田 健）

さいじょう や そ
西条八十と奈良

「…最近流行になっている詩碑というものが、若し僕の死後に建てられるとしたら、僕はあの紫の藤の花が老杉に結んで咲く春日の奥山、水谷川のほとりを選びたい」（「なつかしき古都寧楽を想ふ」）

詩人西条八十がそのほとりに詩碑を建立したいとした川は、春日山原始林を源流域とし、山峡を流れるうちは「水谷川（みずやがわ）」と称されるが、東大寺南大門前を流れる頃には、名を「吉城川」と変える。また、万葉集では「宣寸川」と詠まれた川である。

水谷川の源流付近には、月日の形に彫られた岩があり、このあたりを「月日の磐」と呼ぶ。奈良時代・和銅年間に、都祁の水室の神をこの地に遷して水室を置き、製氷し貯蔵したという。現在、国立博物館前にある水室神社は、もとはこの地にあったと伝えられる。

八十と奈良との関わりは、実姉兼子の婚家に居候する形で過ごしたわずか一年ばかりに過ぎない。

明治42年（1909）、早稲田大学英文科予科に入学した八十は、講義がつまらないから、と約二ヶ月で退学してしまう。数ヶ月無為に過ごす間に、初恋の女性薫の結婚を知らされ、失意のうちにあった彼は、奈良に暮らす姉夫婦のもとに身を寄せたのであった。姉兼子の夫広辻大尉は、当時奈良連隊付副官で、添上郡古市村（現奈良市古市町）に居住していた。八十の様子を見かねた義兄は、半ば強引に第三高等学校（現京都大学）文科丙類（フランス語）の受験を勧めた。しかし、受験のため京都に向かった八十は、「三日目の最後の日を待たず、とっぜん、心境に変化を生じ、頭を丸坊主にして、奈良へととんと舞いもどってきてしまった。自分が抱き自分が抱かれていたものと、三高受験風景とはあまりにもかけ離れていた。さっぱり断念してしまったのである。義兄には見限られてしまい、それから半年は、奈良や関西をさすらい歩いているうちに、薫への傷手もうすらいだか、ようやく東京へ帰ってきた。」（『父西条八十』）のであった。

帰京後、八十は早稲田大学英文科予科に再入学するとともに、東京帝国大学文学部国文学科選科生ともなって、二つの大学に通い、その後は詩人

として、またランボーの研究者として活躍した。大正11年（1922）2月、八十がもっとも慕っていた実姉兼子が亡くなったが、八十にはその衝撃は大きかったとみえ、翌3月末に来寧したさい、「寧楽の第一夜」と題する詩を残している（『美しき喪失』）。

姉よ、亡き姉よ、
その昔おんみ住める懐かしき土地に
いま弟は在るなり、
まろらけき嫩草山の巔きに
変わらぬままの月魄よ、
今わが心は蹣跚へる鹿となりて
紅殻ぞめの家家のうち並ぶ
深夜の八衢を狂ほしく奔りさまよふ。

あたたかき雨きたれり、
ああその屋根濡らす、
消なば消ぬかの快きひびきよ、
そはわが姉の白き喪服きて、
遠くちかく歩みよる跣音のごとく、
また見えざる世界より愛弟に話かくる
いと優しき言葉にも似たり。

わずか一年余の生活だったとはいえ、姉兼子への慕情とあいまって、八十にとって奈良は、あくまでも懐かしく忘れがたい土地だったようだ。

奈良で過ごした日々、奈良公園の裏坂、大仏殿近くに住むキンボールという老米国婦人に、週に一度英語を習っていた八十は、古市から約一里の道を通っていたという。後年、詩人となった八十は、このあたりの風景を見ながら何を想い、悩み多き青春時代を過ごしたのだろうか。

《引用文献》

「なつかしき古都寧楽を想ふ」（『婦人公論』昭和12年6月号）

『父西条八十』 西条嫩子 中央公論社 1975

「美しき喪失」（『西条八十全集』第1巻 国書刊行会 1991）

『大和百年の歩み』文化編 大和タイムス社 1972

『西条八十著作目録・年譜』中央公論事業出版 1972
（佐野 優子）

▶▶▶ 「携帯版 Web サービス」 について ◀◀◀

県立奈良図書館では、平成 9 年 2 月から県立奈良図書館と県立橿原図書館が所蔵する図書等の目録情報をインターネット上に公開してきました。そして、より気軽に、より身近に、より多くの方々に当館の資料、情報をご利用いただけるよう「携帯版 Web サービス」を平成 15 年 8 月 1 日から開始しました。これまで、インターネット接続のパソコンでご利用いただいていた、利用案内や所蔵資料の検索サービスが、携帯電話からもご利用いただけます。このサービスは、i モード、J-sky、EZWeb、3 種類の携帯電話でご利用可能です。（一部機種では正常に作動しない場合があります）URL（アドレス）はパソコンでのインターネット接続と同じ「http://www.library.pref.nara.jp」です。

では、トップページの項目ごとにサービス内容を簡単に説明します。先ほどの URL にアクセスしていただきますと、左下①のような「奈良県立奈良図書館●トップページ●」の画面が表示されます。

「1. 利用案内」では、県立奈良図書館の住所、電話番号、開館時間をはじめ、資料の貸出、複写や調査相談のご案内をしています。また、「6. 開館日カレンダー」では開館日を確認できます。

次に「2. 図書検索」では、県立奈良図書館と県立橿原図書館の両図書館が所蔵している図書資料の検索ができます（下図②③④）。また、「3. 雑誌検索」では、県立奈良図書館が所蔵している雑誌資料が検索できます。

さらに、メールアドレスをお持ちの方は、ご来館されて一般閲覧室カウンターでお申込みいただけますと「4. 貸出情報」で、自分が借りている資料の確認（個人貸出状況の確認）と貸出延長（他の方の予約がない場合に限り）がご利用いただけ、「5. 予約情報」では貸出中の資料を予約することができます。

この「携帯版 Web サービス」により当図書館を多くの方々が身近に感じていただき、ご利用いただけたらと考えています。

（尾松 謙一）

「携帯版 Web サービス」の画面イメージ



① トップページ

② 図書検索画面

③ 検索結果詳細

④ 所蔵詳細

「(仮称) 奈良県立図書情報館 on the WEB」 先行 OPEN!

平成 17 年度に (仮称) 奈良県立図書情報館が開館します。その開館に先行して、「新図書館 on the WEB」が OPEN しました。インターネットが見られる環境であれば、どこからでも、ご覧いただくことができます。新図書館は「どんな部屋があって、どんな情報を得られるのか」「どんなサービスがあるのか」を紹介し、また、体験していただけるサイトになっています。

新図書館では、インターネットの利用環境も整備し WEB などのデジタル資料と、従来からの紙資料を一つの机に広げることができます。そんな、新図書館で利用できるサービスをこのサイトで体験してみてください。

主なみどころ

●図書館ツアー

館内を順に案内します。各部屋のイメージ画像があり、どんな部屋で、何ができるのかが、わかります。

●各部屋のコンテンツ利用

各種 WEB 資料としてつかえるコンテンツを各部屋のページにしています。

・主なリンク資料

お仕事便利ナビ (レファレンスデスク)

体験! 使えるデータベース集 (利用端末個席)

地域関係データベースリンク (地域研究支援-専門資料コーナー)

戦争体験文庫関係機関リンク (戦争体験文庫-専門資料コーナー)

・図書館作成の資料

画像で見る奈良の歴史 (地域研究支援-専門資料コーナー)

資料リスト (戦争体験文庫-専門資料コーナー)

画像と解説 (戦争体験文庫-専門資料コーナー)

●カンタン DTP

「情報のアトリエ」のページで、文庫サイズのブックカバー印刷ができます。

その他、新図書館の概要や地図、建設地の様子なども見ることができます。また、このサイトは、今後も「使える」「体験できる」コンテンツを充実させていく予定です。ご期待ください。

「(仮称) 奈良県立図書情報館 on the WEB」の URL …

<http://www.library.pref.nara.jp/newlib/index.html>

(高辻亜由美)



↑新図書館の完成イメージ画像がトップページになっています。

Pick up !

【テーマ】 『電 蓄』

●電蓄とは？

電蓄とは電気蓄音機を省略した言葉で、要するにレコードプレーヤーのことです。



(← 写真)
(以下ヤフーの検索より)
⇒ ちくおんき

【蓄音機・蓄音器】

レコードに吹き込んだ音を再生する装置。1877 年アメリカのエジソンが発明。針がレコードの音溝をたどって起こす振動を、機械的に増幅して金属の振動板に伝え再生する。

のち、針の振動を電気信号に変換する方式になった。フォノグラフ。

⇒ でんちく【電蓄】

真空管・トランジスタなどによる増幅器を備えた蓄音機。電気蓄音機。

●電蓄は何処にある？

現在、新品で購入できる電蓄はごく一部あります(↓ 写真)が、ほとんどは中古品になります。ここでは、今考えられる中古電蓄の入手先を紹介します。



○その1・オークション

インターネットのオークションでは数多く出品されています。

デメリットは、商品を直接チェックできない点、白熱して値段が高くなる点です。値段のことはともかく、直接見れない点。インターネットの性質上仕方ないのですが、Q & Aで“これでもか”というぐらい質問して情報を得ることが大事です。しかし、出品者も電蓄に詳しくないが故に「完動品」、「動作確認済み」の表記があっても、実際受け取ってみると回転ムラ、グロがある、音量を最大にしても音が小さい…ということが多々あります。ただ、駆動系統の故障の場合は手先が器用な人だったら簡単に直せると思います。

○その2・フリーマーケット、骨董市
場所によっては大きなフリーマーケット、骨董市が開催されており、たまに見かけます。直接、商品が見れて質問できて、値段を値切ることもできる点はオークションよりも有利です。コンディションはフリマの方が良いが、骨董市はうぶ出し*の商品が多いのが傾向です。骨董市の場合店の倉庫にずっと眠っていたデッ

トストックなどが並ぶことがあります。

※一般の家庭や蔵などで仕入れ、市に出すこと

○その3・リサイクルショップ

単品の物やコンボに付いているプレーヤーなどは見かける事があります。しかしポータブル機は完動品が少なく、骨董品になりつつあるのでリサイクルショップよりも骨董屋さんに置いている可能性が高いと思います。

○その4・ゴミ捨て場

年数回、粗大ゴミがありましたが有料で処分する現在一番可能性は低いと思います。

また、大ききからして燃えないゴミとして処分されてしまっていると思います。

●電蓄関係の書籍

電蓄に興味を持たれた方は、以下に関係書籍をご紹介しますので研究されてみてはいかがでしょうか。

- ◇『電気蓄音機：解説、設計、組立、修理』
山海堂編 山海堂 547.2-1
- ◇『ラジオテレビ電蓄辞典』
東京ラジオ研究会編 三共出版 548-30
- ◇『家庭に必要な蓄音機の知識』
田邊尚雄著 文化生活研究會 424.9-1
- ◇『機械のある世界』(ちくま文学の森 11)
安野光雅著 筑摩書房 908-49-11
- ◇『「声」の資本主義－電話・ラジオ・蓄音機の社会史』
吉見俊哉著 講談社 361.5-196
- ◇『図説・世界の蓄音機』
三浦玄樹著 三玄社 547.2-10
- ◇『蓄音機 100 年－サウンド文化の歩み』
グリーン・アド企画編 音楽之友社 769-13
- ◇『蓄音機の歴史』
梅田晴夫著 PARC 出版局 769-16
- ◇『日本レコード文化史』
倉田喜弘著 東京書籍 769-27
- ◇『ベートーヴェンと蓄音機 (オーディオ)』
五味康祐著 角川春樹事務所 914.6-2438-9
- ◇『世界のレコードプレーヤー百年史』
山川正光著 誠文堂新光社 547.2-11

(鎌塚 正久)

利 用 案 内

開館時間	閲覧室、読書室、学生室 9：00～20：00 郷土資料室、児童室 9：00～17：00
休 館 日	月曜日・祝日・月末・年末年始 図書点検期
交通案内	近鉄奈良駅から東へ徒歩 5 分

奈良県立奈良図書館報 うんてい 第 75 号 平成 16 年 3 月 30 日発行

《編集・発行》 奈良県立奈良図書館 ☎630-8213 奈良市登大路町

TEL. 0742-27-0801 FAX. 0742-27-0865 URL <http://www.library.pref.nara.jp/>